

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

食品工場におけるボイラーの更新

(A 重油→都市ガス)

排出削減事業者名：セントラル製麺株式会社

排出削減事業共同実施者名：ES カーボンクレジット合同会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	セントラル製麺株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	本社
住所	〒485-0831 愛知県小牧市東4丁目2番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	ES カーボンクレジット合同会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

食品工場におけるボイラーの更新（A 重油→都市ガス）

2.2 排出削減事業の目的

工場で使用しているボイラーを高効率の機種へ更新することにより、二酸化炭素排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

これまで使用していたA重油ボイラーを高効率の都市ガスボイラーに更新することにより、エネルギーの使用の合理化を進め、二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

承認排出削減事業計画からの変更項目

（個別項目の欄において具体的に記載すること。）

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2011 年 10 月 13 日

3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2017 年 4 月 1 日 ～ 2019 年 10 月 12 日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

なし。

4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは工場内のボイラー（更新前 3 台、更新後 2 台）およびその蒸気が供給される機器である。

5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{\text{fuel},Pj}$	事業実施後燃料使用量	千 m ³ N	2017年度：767.7 2018年度：770.7 2019年度：401.0	燃料会社からの請求書等に記載された値を集計、標準状態※に換算する。	
$HV_{\text{fuel},Pj}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/千 m ³ N	2017年度：44.5 2018年度：43.6 2019年度：43.6	J-クレジットデフォルト値	
ε_{Pj}	事業実施後のボイラーのエネルギー消費効率	%	88.2	カタログ値をもとに算定	
ε_{BL}	事業実施前のボイラーのエネルギー消費効率	%	85.5	カタログ値をもとに算定	
$CF_{\text{fuel},BL}$	事業実施前の燃料(A重油)の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2017年度 ～2019年度：0.0708	J-クレジットデフォルト値	
$CF_{\text{fuel},Pj}$	事業実施後の燃料(都市ガス)の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2017年度 ～2019年度：0.0513	J-クレジットデフォルト値	

※1 モニタリング期間において、気象庁統計データより愛知県(名古屋)での平均気温および中圧(0.981kPa)から標準状態へ換算

6 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	767.7	44.5	0.0513	1,752.6
2018 年度	770.6	43.6	0.0513	1,723.7
2019 年度	401.0	43.6	0.0513	896.9
	千 m ³ N	GJ/m ³ N	tCO ₂ /GJ	tCO ₂
	EM _{PJ}			4,373.2

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	35,242.7	—	0.0708	2,495.2
2018 年度	34,661.1	—	0.0708	2,454.0
2019 年度	18,036.5	—	0.0708	1,277.0
	GJ/年	—	tCO ₂ /GJ	tCO ₂
	EM _{BL}			6,226.2

6.3 リークージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2017 年度	0			0
2018 年度	0			0
2019 年度	0			0
	LE			0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	6,226.2
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	4,373.2
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	1,853

7 省エネルギー量

	原油換算 (kl)		
	ベースライン ①	実績 ②	ベースライ ン-実績 ①-②
	2,322.7	2,251.6	71.1

省エネルギー量 (原油換算) = 71.1 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年 4月 1日 ~ 2017年 3月 31日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)
バイオマス利用量	t	0		
バイオマス熱利用量	GJ	0		
太陽光発電量	kWh	0		
温泉熱・温泉排熱利用量	GJ	0		
バイオコークス利用量	t	0		
太陽熱利用量	GJ	0		
小水力発電量	kWh	0		
雪氷融解水熱利用量	GJ	0		
風力発電量	kWh	0		
バイオディーゼル燃料使用量	kl	0		